

2023 年度事業実績

1. 総会

2023 年 2 月 11 日(土・祝)13:30～15:30、千葉市生涯学習センター(2F ホール)で 2023 年度総会を実施した。出席者 30 名、委任状提出者 104 名。全議案(2022 年度事業報告・会計報告、2023 年度事業計画・予算、役員の一部異動)が承認された。

2. 指導員講習会

10 月 21 日(土)～22 日(日)手賀の丘青少年自然の家(柏市)で実施した。受講者数 74 名、内千葉県内在住者が 45 名。講師 3 名、スタッフ 11 名(自然観察ちば 10 名、NACS-J1 名)、千葉県 1 名が参加。講習会後に 22 名の新指導員が自然観察ちばに入会した。

<振り返り>

2 年ぶりの千葉県での開催となった。しかも今回は久しぶりの宿泊開催(前はコロナ禍最中で日帰り)。募集は 60 名の予定だったが全応募者を受け入れ 74 名の受講になった。佐野講師とスタッフの努力もあり、22 名の方が自然観察ちばに加入された。今後、各観察会・研修会への参加のお誘いや新指導員向けの観察交流会の企画などを行い、新指導員の会の活動への参加、定着を目指すこととした。

3. 昭和の森

(1) 昭和の森定例観察会 第 2 日曜日

実施回数 実施 7 回、中止 3 回

参加者 142 名 (大人 81 名 子ども 61 名) 指導員 59 名

<振り返り>

2023 年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行のため、4 月からは参加者 25 名程度の申し込み制とした。荒天の為 3 回の中止は残念だったが、子どもさんの参加者が多く、昭和の森の自然を親子で楽しむ姿が多く観られた。

(2) 昭和の森親子田んぼ教室

実施回数 実施 3 回

参加者 59 名 (大人 30 名 子ども 29 名) 指導員 9 名

<振り返り>

2023 年度参加者は、4 月田植え、6 月草取り、9 月稲刈り、作業後の田んぼの生き物調べ楽しく体験、実施できた。温暖化の影響からか、9 月は真夏日での稲刈りとはざかけ作業は大変だったが、参加者は最後まで作業も生き物調べも楽しく実施できた。

(3) 昭和の森カタクリ特別観察会

実施回数 実施 1 日、中止 2 日

参加者 200 名 指導員 3 名

<振り返り>

桜もカタクリも満開を迎えていたが、残念ながら 25・26 日は雨の為中止となった。27 日はまずまずの天候となり、たくさんの人達が見に来られた。カタクリの花は連日の雨に打たれたためか、終盤といった感じだった。中菖蒲田のカタクリ斜面の向かい側にはアオキ(雄花)、マルスマリ、タチツボスマリ、ウラシマソウ、キランソウ、アカフタチツボスマリ、オトコヨウヅメ、ツクバキンモンソウ、ホタルカズラ、フデリンドウなどが咲いていたので、手作りの札を立てて来園者の方々にも楽しんでいただいた。さらに田んぼから赤ガエルの卵塊、オタマジャクシ、メダカ、カワニナ、タニシを集めてきて、通るだけの子どもや大人にも谷津田の自然を堪能していただいた。来年もたくさんカタクリが姿をみせてくれることを祈るばかりです。

4. 大草谷津田いきものの里自然観察会 第 3 日曜日

実施回数 実施 10 回、中止 1 回

参加者 180 名 (大人 90 名 子ども 90 名) 指導員 45 名

<振り返り>

8月を除く11か月のうち(7月のみ9時30分から11時)中、10月を除く10回実施した。事前予約の15名限定ルールもコロナの影響縮小に合わせて30名程度まで増やしていただき、当日キャンセルに対応できるような柔軟な運用に切り替えていただいた。以前のような大人数でにぎやかに行う観察会はなくなってしまったが、その分、各担当の工夫によってじっくりと観察会を行える環境が整ったように感じる。依然、大草谷津田いきもの里の認知度が低い中、千葉市でも積極的な広報を行っていただいております、10月にCATV、12月に地域新聞の取材を受けた。

5. 東葛しぜん観察会

(1) 東葛一般観察会

実施回数 実施 8回、中止 1回
参加者 206名 (大人 152名 子ども 54名) 指導員 107名

<振り返り>

コロナ感染リスクの不安が低くなって 天候にも恵まれて 参加者が増え、担当指導員が下見会で充実した準備を行い、よい観察会が開催できた。

(2) 東葛研修会

実施回数: 研修会 4回実施、参加者: 指導員 75名

<振り返り>

2月に鎌ヶ谷市の新しいフィールドで開催、7月には流山市でホテル フィールド研修を実施、「タネの力」の勉強会、タンザニア旅行記の発表会があり、充実した研修会の開催だった。

(3) パークプロジェクト (講座・小学校校外学習ほか)

実施回数: 講座 5回、校外学習 1回
参加者: 講座 69名 (大人 44名 子ども 25名) 指導員 19名
校外学習参加者 子ども 90名 指導員 5名

<振り返り>

21世紀の森と広場(松戸市)との共催事業はパークプロジェクトとして進めており、「クズの繊維で織物づくり」・「森と水辺の生きものさがし」など自然観察講座5回の開催だった。校外学習は松戸市内の小学校からの依頼をパークが受けて、学年ごとで実施するため人数が多い。自然たんけんラリーは自然を体験する方式で1回の開催だった。

(4) その他 (講座: 松戸市青少年会館)

参加者: 子ども 11名 指導員 4名

<振り返り>

前年に続いて、小学生対象の青少年教室の講座を受託し、「初夏の自然観察体験」を開催した。

6. 行政関連

(1) 千葉市ふれあい観察会 (千葉市環境保全課自然保護対策室)

実施回数 2回
参加者 32名 (大人 18名 子ども 14名) 指導員 10名

<振り返り>

人工海浜(6月)と里山谷津田(9月)の2回とも、「どんな生き物がいるかな」をテーマに、生き物を採取して触れる観察会を実施した。準備、運営に労力と時間がかかったが、子供たちは飽きることなく熱心に参加していた。

(2) 稲毛海浜公園自然観察会 (千葉市中央・美浜公園緑地事務所)

実施回数 4回
参加者 86名 (大人 53名 子ども 33名) 指導員 16名

<振り返り>

周囲を大規模団地に囲まれた埋立地の公園であるが、人工海浜はじめ多様な自然に恵まれている。参加者は親子連れが多いことから体験型の自然観察をメインとし、参加者の満足度は高かった。

(3)成田市自然観察会（成田市環境計画課）

実施回数 4回

参加者 92名（大人 60名 子ども 32名） 指導員 23名

<振り返り>

夏休みの親子生き物教室(7月)は参加者調整のため平日開催とした。その他は秋探し(11月)、野鳥(12月)、成田山公園(3月)で実施したが、遠隔地からの指導員の参加も得て、年4回をバランスよく実施することが出来た。

(4)船橋自然散策会（船橋市環境政策課）

実施回数 2回

参加者 28名（大人 16名 子ども 12名） 指導員 6名

<振り返り>

小室と木戸川地区で2回実施した。小学生と保護者を対象にして、昨年に引き続き遊び要素(ビンゴカード、笹・葦船、花の色つけ、引っ付き虫投げ、どんぐりパチンコなど)を加えて行った。春の回では小雨予報で直前キャンセルが多く参加者が少なかったのが残念だったが、市が行った参加者へのアンケートでは満足度は高かった。

(5)花島公園観察会（千葉市花見川・稲毛公園緑地事務所）

実施回数 3回

参加者 60名（大人 34名 子ども 26名） 指導員 14名

<振り返り>

初年度だったが、2月野鳥、7月昆虫、11月どんぐりと季節のテーマで実施した。公園センター講習室の優先利用が可能なおことから短時間の室内プログラムを組み入れ、熱中症対策や工作場所として利用するとともに、雨天時も時間短縮して実施することとした。

(6)その他

①検見川ビーチフェスタ（千葉市緑政課）

実施回数 2回

参加者 約450名 指導員 11名

<振り返り>

地域イベントでのテント展示(終日)を依頼され対応に苦慮したが、5月は検見川浜の生き物展示、生き物ビンゴ、生き物スロットなど、10月はどんぐり遊びや竹ぼっくりなど、会員それぞれの得意分野を持ち寄る形で複数の展示内容とし、多くの参加者で賑わった。準備と当日の運営に多くの労力を要した点については、今後工夫の必要がある。

②なりたの森あそび（成田市農政課）

実施回数 1回（11月）

参加者 小学1年生40名、教員4名 指導員 4名

<振り返り>

里山をフィールドに生活科「秋の森であそぼう」を実施。落ち葉やどんぐりなどを拾い集め、それらの自然物を使った遊びや秋の自然を体感するダイナミックな活動にどの子どもも夢中、森に元気な声が響き、満足気であった。

7. 研修関係

実施回数 実施 1回(8月)

講演「鳥と昆虫の紫外線の世界」(場所:市川市八幡市民会館全日警ホール) 講師:浅間茂氏
参加者 40名、(内、自然観察ちば指導員 15名)

<振り返り>

市川市の全日警ホールでいちかわ森の交流会と共催で実施した。自作の紫外線カメラで撮影した多数の写真で人が見る光景と異なる紫外線の世界が紹介された。紫外線の効果は種別、性別、蜜の在処、天敵の対策等、色々な意味を持つ。人が見えない世界に別の重要な自然界があることに気づかされた。講師はただ説明するだけでなく、なぜ?なぜ?と質問を投げかけながら参加者と考えていく貴重な2時間だった。

8. 企業・団体関連

(1)イオン関連

実施回数: 2回 中止1回

参加人数: 304名(大人 104名 子ども 200名) 指導員 15名

<振り返り>

イオン南関東グループ各支店からチアーズの子供たちがバスで来て千葉市富田さとにわ耕園で農業収穫体験をするプログラム。それに自然観察が組み込まれることになったもの。23年度は2回実施された。参加者は大人数で年齢は中3~小1と幅があり難しい点はあったが、やる気のある子どもたちと楽しく充実した観察会ができた。

(2)(公社)千葉県緑化推進委員会

①緑の募金による森と緑に親しむ活動支援

実施回数: 3回(松戸市2カ所、船橋市)

参加人数: 219名(大人 107名 子ども 112名 指導員 28名 協力団体 多数参加)

<振り返り>

それぞれ緑の募金による支援にふさわしい特徴的な活動に支援することが出来、参加者も多数だった。

②「みどりの教室」

実施回数 実施 1回(8月)

場所 緑化推進拠点施設 晝間講師、指導員スタッフ2名

参加者 保育士17名、県1名、指導員2名

<振り返り>

幼稚園や保育園、自然関係団体の指導者の参加があり、幼児の自然体験の意義について説明、そのあと自然とのふれあいや自然物を使った遊びを体験、楽しく充実した研修となった。

③校外学習支援

実施回数: 1回 (11月)

参加人数: 小学1年生 179名+引率教師 8名 晝間講師 スタッフ指導員 5名 森林インストラクター5名

<振り返り>

袖ヶ浦市「緑化推進拠点施設」において、近隣の蔵波小1年生 179名が5,6人ずつ 30班に分かれて実施。広い構内にある8つの自然体験プログラムを自由に回って体験、秋の自然を全身で感じる楽しい活動であった。

9. SSN関係

年間活動実績（2023年1月～12月まで）

実施回数 54回、中止0回

参加児童 3,037名 指導員延べ216名、協力者延べ107名

詳細は別紙「SSN年間活動実績一覧表」のとおり

<振り返り>

2023年はほぼコロナ前に活動も戻り、各学校予定通りに観察会を実施することができた。そのような状況でSSNにかかわる指導員を十分な人数確保することに苦勞している、という現場の声も聞かれた。今年は協力者の参加も多く（去年は延べ82名）、たくさんの地域の方に支えられていると感じる。

また、2月に行ったSSN勉強会では佐野講師による「幼少期の子どもと自然のかかわり」をテーマに、自然観察をする上での子どものかかわり方を学んだ。長年SSNを経験している先輩方からの経験談なども聞く機会にもなり、とても充実した勉強会になった。

SSN勉強会

実施回数： 1回

場所：千葉市生涯学習センター 佐野講師 指導員スタッフ2名

指導員： 23名（スタッフ2名を含む）

10. しおかぜ発行

発行回 6回(220～225号) 印刷・発送は外注

編集担当 勝股 太田 三嶋 高木

イラスト 梅宮 中田

しおかぜ印刷・発送の外注先：正文社(千葉市)

<振り返り>

観察会が各所で開催されるようになり しおかぜ掲載は16ページの編集、季節に合わせたテーマの投稿があり、子どもたち、家族連れの楽しい記事が掲載できている。

11. その他

・メールマガジン

発行回 12回(30～41号)

編集担当 伊藤

<振り返り>

毎月1回月初めに会員200名余に配信し、行事予定の詳細を記載するとともに、当日(応援)スタッフの呼びかけを強調する編集とした。またコラム(会員の広場)を添付し、会員間コミュニケーションの醸成を図った。コラムは自然観察ちばHPにも掲載している。今年は新入会員への情報発信に注力するとともに、関係市町村など配信先の幅を広げていきたい。

12. 月例会(第3土曜日)

実施回数 12回 (ZOOM11回 千葉1回)

参加人員 159名

2024 年度事業計画

1. 総会

2月12日(月・祝)、千葉市生涯学習センターで実施する。
講演会、懇親会、特別観察会(園生の森)を実施する。

2. 協議会設立40周年記念

外部講師を招いて、記念講演を開催する予定。

3. 昭和の森

(1) 昭和の森定例観察会 第2日曜日

毎月第2日曜日午前10～12時、7月を除いて年11回実施する(8月は室内)。
毎回定員は25名程度で公園管理事務所が先着順で申し込みを受け付ける。
当日の受付は昭和の森管理事務所(指定管理者)。指導員は2人体制

(2) 昭和の森親子田んぼ教室

4月(田植え)、6月(草取り)、9月(稲刈り)の3回実施する。
定員は親子で20名程度 受付は昭和の森管理事務所(指定管理者)。指導員は3人体制

(3) 昭和の森カタクリ特別観察会

昭和の森管理事務所より委託を受けた「カタクリ観察会」を3月23、24、25日の3日間実施する予定。

4. 大草谷津田いきものの里自然観察会 第3日曜日

毎月第3日曜日(8月を除き年11回)実施。午前10時30分～12時(7月のみ9時30分～11時)
毎回定員は15名、受付は千葉市環境保全課。指導員は3人体制

5. 東葛しぜん観察会

東葛の活動は、一般観察会10回、研修会5回、パークプロジェクト等5回を予定。研修会については、新人向けの研修交流会を春秋の2回、外部講師の講演1回、内部講師の講演1回、県外への一泊バス研修1回を予定している。このほか、校外学習支援も引き続き要請されるものと想定。

6. 行政関連

(1) 千葉市ふれあい観察会 (千葉市環境保全課自然保護対策室)

年2回を予定(9～12時)

(2) 稲毛海浜公園自然観察会 (千葉市中央・美浜公園緑地事務所)

年4回を予定(10～12時)

(3) 船橋市自然散策会 (船橋市環境政策課)

年2回を予定(9時30分～12時)

(4) 成田市自然観察会 (成田市環境計画課)

年4回を予定(9時30分～12時)

(5) 花島公園観察会 (千葉市花見川・稲毛公園緑地事務所)

年3回を予定(10～12時)

(6) 緑の募金による自然に親しむ事業 (千葉県緑化推進委員会)

3団体(3か所)の支援を予定

7. 研修関係

決定済み研修：7月8日(月) (仮称)こどもの環境教育について 講師:金沢学院大学 藤井徳子氏
また、昨年多くの新入会員が入会されたことにともない、新人向けの研修交流会を年度の前半に実施したい。

8. 企業・団体関連

依頼内容に応じて、実施する。

9. SSN関係

学校は3学期に入り、冬の自然観察会も活発に行われている状況である。新年度以降も引き続き、安心して楽しく伸び伸びとした自然観察が行えるよう、担当指導員同士が協力し体制を整え、学校現場からの要望に応じていきたい。また、一緒にSSN活動に加わっていただける仲間を増やしていきたい。

10. しおかぜ発行・自然観察ちばHP

編集： 勝股、太田、三嶋、高木 4人で担当し、年6回 発行する。

表紙イラスト：梅宮、山岸、中田 3人 (1月号は中田、5・9月は山岸)

印刷・発送：外注予定 (外注先:正文社(千葉市))

自然観察ちばHPに「会員ページ」を設け、昭和の森観察会資料2012～2020年分を掲載する。SSN報告書は2010年分から掲載する。

11. その他

メールマガジン

行事予定の詳細を記載し、会員間コミュニケーションの醸成を図るコラムとあわせ、引き続き月初めに会員に配信する。

12. 月例会

ZOOM会議を原則とし、必要に応じて千葉市中央コミュニティセンターで実施する。

役員改選

<任期：2024年－2025年>

- 代表 伊藤道男 (総括・一部渉外事務)
- 副代表兼事務局長 山口正明 (事務全般・東葛しぜん観察会担当)
- 会員管理 川北紀子 (名簿管理・昭和の森観察会等担当)
- 会計 浦部純子 (出納担当)
小川洋子 (会費担当)
- 観察会 佐野由輝 (昭和の森観察会担当)
山下美佐子 (昭和の森観察会担当)
梅宮玲子 (昭和の森観察会担当)
木下順次 (大草谷津田いきものの里観察会担当)
岡田敬子 (大草谷津田いきものの里観察会担当)
- 研修会 川瀬美幸*・白波志帆*
- S S N 川瀬美幸・八木千里
- 自然体験等 晝間初枝 (ちばの森遊び・緑の教室担当)
- 広報 三嶋秀恒 (広報担当・会報編集委員長)
太田慶子 (会報編集担当)
高木純一 (会報編集担当)
勝股政雄 (会報編集担当)
- ZOOM 川瀬美幸
- 会計監査 藤田 隆・花島伸美*

*印候補：新任 無印候補：再任

退任者：米澤理雄、石松成子、中田真也子



伊藤 山口 佐野 川瀬 白波 八木 晝間 梅宮 太田 山下 岡田 小川 浦部 藤田 花島 川北 勝股